

西宮市医師会看護専門学校 令和7年度 自己評価および学校関係者評価結果

○自己評価および学校関係者評価の経緯と概要

2003年に看護師等養成所の教育活動に関する自己評価指針が示され、本校においても教育の質向上に向け、2004年度より自己点検・自己評価委員会を立ち上げ、厚生労働省の自己評価指針¹⁾をもとに自己点検・自己評価への取り組みをはじめました。

指針をもとに約10年自己評価活動に取り組んできた結果、授業運営にかかわる教育課程経営や教授学習評価過程に関する評価は、ほぼすべての項目が高い評価となっています。しかし、国際交流、研究に関して評価点は低いまま経過していました。そこで、本校の厚生労働省の自己評価指針をそのまま使用することが本校の教育理念に合致しているのかを含め、本校の自己点検・自己評価のありかたについて改めて見直し、自己点検・自己評価委員会において本校の教育理念を基本に、厚生労働省の自己評価指針¹⁾、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」²⁾も参考にしながら、本校の自己点検・自己評価指針を作成しました。

本校は西宮市医師会定款に示す医療技術者の養成に関する事業を受けて運営されており、地域に密着した看護サービスが提供できる看護の実践者を育成することにあると教育理念にあげており、教員の研究活動より学生の教育活動に重点がおかれるのは当然であると考え、これまで、一つの Kategorie として取り扱っていた Kategorie IX「研究」については、教育活動の充実に関する下位項目ととらえ、評価 Kategorie を整理しました。その結果、2015年度より評価指針を6 Kategorie に整理し、Kategorie ごとに下位項目、評価内容を作成し、評価しています。令和元年度には自己点検・自己評価委員会を自己評価委員会と改称し、あらたに学校関係者評価委員会も立ち上げ評価を行いましたので、2025年度自己評価結果および学校関係者評価について報告します。

1) 厚生労働省

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」報告書
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2003/07/s0725-5c1.html> 2026年5月アクセス可能

2) 文部科学省

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく学校評価マニュアル
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/05/30/1348119_01.pdf 2026年5月アクセス可能

学校関係者評価

西宮市医師会看護専門学校は、令和8年5月21日に「2025（令和7）年度の自己評価結果報告書」をもとに、学校関係者評価を実施いたしましたので、以下のとおり報告いたします。

令和8年5月25日

西宮市医師会看護専門学校

学校関係者評価委員

- 1) 臨地実習施設関係者 西岡 亜衣子
- 2) 元学校長 井上 晃一
- 3) 卒業生 前 佳美
- 4) 講師 嵩原 英喜

【評価カテゴリーごとの学校関係者評価・意見】

I 教育理念・教育目標	<p>・教育理念、目的、目標が大きく変化することはない。</p> <p>評価内容3. に示している「教育理念・教育目標の具体的な提示」とは、どのような提示であるか質問した。学校からの返答は、提示の具体性というよりは、理念・目的・目標（ディプロマポリシー）の関連性を具体的に示しているという回答を得た。運用は適切に行われていると判断する。</p>
II 教育活動	<p>・学生の学力低下という背景はあるが、授業態度の改善のための巡視を行い改善に向けた努力をされている。</p> <p>・実習先からの教員常駐要望もあり、授業準備時間の確保は課題であるが、西宮市医師会看護専門学校は以前から現場には強い、臨床実習には熱心であるという強みを継続して欲しい。</p>
III 経営・管理過程	<p>・学校経営・運営への懸念は昨年同様である。建物の老朽化による修繕費等の支出を抑えることは難しい。学生の総定員 240 名のところ在校生数 211 名である。1 学年定員 80 名がコンスタントに確保できれば、経営は安定するのであれば、学生確保が重要となる。カテゴリーIV（入学）とも関連するが、少子化で 18 歳人口が減少しているのであれば、社会人入学生を確保できるように枠を増やすことや募集を工夫するなど努力して欲しい。阪神間の看護専門学校だけではなく、全国的にも看護師養成所の学生定員確保が厳しい状態であるが、この難局を乗り切って欲しい。</p> <p>・財務的には適切に管理運営されていると判断する。</p>
IV 入学	<p>・高校生の看護系大学への進学志望者は専門学校志望より増加している。高校生にとって、看護基礎教育を 3 年間で終えることのメリットがあるのかどうか悩ましい。教育内容も多く修業年限 3 年の限界がきているのかもしれない。高等教育修学支援新制度を活用すれば、大学への進学も経済的には可能となる。看護師養成所にとってはますます厳しい現実は良く理解できる。しかし学生数は、経営に直結するため引き続き努力を期待する。</p>

V 卒業・就業・進学	・就職先は、昨年に引き続き、兵庫県内及び西宮市内医療機関への就職率が高かったようであるが、学生個々に応じた就職先で定着できることが望ましい。また、卒後のキャリア形成に出身校による差はないと考える。基礎教育機関では、学ぶことの意味づけをして欲しい。それが卒後の看護師としての基盤となると考える。
VI 社会貢献・地域貢献	・学校としてボランティア活動の機会をつくるのが難しいと思う。1年生は、授業科目の中で社会福祉協議会と連携しボランティア活動も行えている。地域での看護学校の知名度を上げるためにも地域へ貢献できる手段を講じて努力を続けて欲しい。

【総括】

例年、経営面で色々懸念材料はあるが、建物の老朽化による修繕費支出は仕方がない。経営と教育活動は相互に関与するため困難な面もある。しかし、DXの推進に取り組んだり、学生の授業態度改善のために努力されたりしている様子はよくわかる。それらに関しては、このまま継続して取り組んで欲しい。

臨床現場でも毎年のように新人の幼さを痛感している。それ故、学生はもっと手を掛けて支援していく必要があると考える。反面、業務の煩雑さで教員が疲弊しないか心配である。

学生確保という課題は大きく、また学生の低学力傾向という背景もある中で学校経営について昨年同様に努力されている様子はよく理解できた。

いかなる環境下においても教職員は、モチベーションを維持し学生の教育に尽力して欲しい。

令和7年度 自己評価概要

I 教育理念・教育目標	<p>カテゴリー評点 2.94 (昨年度比 0.06 減)</p> <p>医師会立として医師会の定款に則った事業として展開しており、令和3年度に教育理念、教育目的、ディプロマポリシー等を見直し、法的整合性、学校独自のカリキュラム編成を行い令和4年度より実施している。今年度の評価は、評価内容4の「教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。」が昨年度比マイナス1となった。</p> <p>理念・目標ともに学生へ説明し、年度末にディプロマポリシーの到達度自己評価を行っているが、理念や目標が常に学生の学習の指針となるように働きかけているか課題であるため減点した。</p>
II 教育活動	<p>カテゴリー評点 2.97 (昨年度比 0.01 増)</p> <p>教育課程編成の考え方と具体的な構成に基づきカリキュラム運営を行っている。学生へは学生便覧と履修の手引きを配布し入学時及び各学年の前・後期ガイダンスで説明している。教育理念・教育目的・ディプロマポリシーは教員全体にも浸透し、学生にはカリキュラムマップに示されるように3年間の学習をどのように進めるかとディプロマポリシーとのつながりを確認しながら講義・演習・実習を進めている。教育理念にある「地域に暮らす人々」の理解については、科目「地域の特徴と人々の暮らし」において地域でのボランティア活動やフィールドワーク等を行っている。また、教科外活動である学校祭に地域の方の参加を呼びかけ、学校を開放している。今年度も昨年とかわらぬ方法ではあったが、教授活動と並行してすすめることができた。</p> <p>カリキュラム運営は、合理的配慮適用の1年生に対しては、主治医からの指示をふまえて学生が学修できるよう、講師との調整を行いながら進めることができた。また、補習が必要な学生についても調整しながら、補習実習等を計画的に行い単位の修得につなげた。加えて、1年生の中には10科目以上を未修得となった学生が3名あった。学力低下も懸念され、年々学生の授業参加への様子は変化しており、後期には学生の授業態度について指摘を受けた。対策として教員が授業巡回を行い、その後の授業態度は改善はかれ、出席率も上がった。以前にも増して個々の学生の状況に応じた対応が必要であった。これらのことは、教員の研究・授業準備の時間確保へ影響していると考えます。</p> <p>教員の授業準備のための時間確保については、実習時間を1時間=45分に設定。業務についても、学年担当業務を業務担当へ移譲、月別業務分担表の設置による教員全体の日々の業務の可視化などで各教員が授業準備や研究の時間確保に努めた。しかし、学生の生活指導、実習場からの教員の常駐要請、実習を担当する教員が病院内で1名であることなどから帰校しにくい状況が継続しており時間確保が困難な状況であると考えます。</p> <p>授業展開過程については、履修の手引きに基づき授業計画を学生に明示している。複数教員で科目を担当する教員間での計画の共有等で難しさを感じている場合も考えられる。しかし、昨年3月に学内で協同学習の研修を行い、教員の授業方法への工夫にもつながった。</p> <p>目標の評価のフィードバックについて、経験の少ない教員は評価に基づいた授業の改善を難しいと感じているためと考える。しかし、経験のある教員に授業改善について相談するケースもあり、自己の授業の参考にしていく。</p>

<p>III 経営・ 管理過程</p>	<p>カテゴリー評点 2.96 (昨年度比 0.03 増)</p> <p>評価内容 9「情報システム化等による業務の効率化が図られている」の評価が 3.0 で昨年度より 0.5 アップした。4 月よりさくら連絡網を導入し学生の健康管理、授業や実習への出席に関する連絡が速やかに行えた。また学習支援システム「ロイロ・ノート」を試験的に運用し、令和 8 年度からの本格的導入に向けた準備が整った。</p> <p>評価内容 15「保護者と適切に連携している」の評価点が 2.5 で昨年度より 0.5 アップした。令和 7 年度は、成績不振者の保護者を中心に学習及び出席状況について早めに連絡を行った。また、卒業時に保護者にアンケート調査を行い学校に対する意見を伺う機会を増やした。</p> <p>評価内容 27「中長期的に学校の財務基盤は安定している」の評価点は 2.5 と昨年同様であるが、入学定員確保の課題や施設設備の老朽化による修繕費等支出の増加が見込まれる。令和 7 年度は、校内の給水管設備配管更新工事を実施したため支出が増加した。学生の円滑な学校生活の確保と教職員が職務を円滑に遂行できるように計画的に修繕や備品の買い替え等を行っている。</p> <p>令和 6 年度より、「ハラスメントの防止等に関する規程」と「合理的配慮について」の整備を行い、学生・教職員の個々が尊重されるように支援体制を整えている。合理的配慮の申請を行い、現在、配慮している学生は 1 名である。症状の出現に応じて、オンライン授業や別室受験など可能な範囲で対応している。</p> <p>在学生への経済的な支援は日本学生支援機構、市内医療機関の奨学金等について説明会を実施して希望者の便宜を図っている。新たな支援制度ができればその都度対応している。令和 7 年度より導入された多子世帯への入学金・授業料の無償化に対しても対応している。</p>
<p>IV 入学</p>	<p>カテゴリー評点 2.88 点 (昨年比±0)</p> <p>令和 6 年度より、学校説明会の夕方開催導入や Instagram を開設し、PR の機会を増やした。しかし、本校主催のオープンキャンパス・学校説明会や外部進学ガイダンスへの参加者は減少しており、総数では昨年より 50 名減少した。令和 8 年度入学生も 67 名と定員を割っていることより、入学生確保に向けた対策が大きな課題である。</p> <p>入学選考については、規程通りに運用し入学者選抜を公正に実施している。入学試験委員会において過去の入学状況を参照し、選抜方法について検討している。令和 8 年度入学生の試験科目は、推薦・社会人・一般 2 次試験は国語 1 科目のみ、入試日程も 1 日のみとした。また、推薦・社会人・一般 1 次試験の入試日程を前倒しした。その結果、全体的な応募者数は、微減であった。</p> <p>今後も 18 歳年齢人口の減少と大学進学志望は続くため、学生確保対策は重点課題である。</p>

<p>V 卒業・ 就業・進学</p>	<p>カテゴリー評点 2.75 点 (昨年度比 0.13 減)</p> <p>評価内容 6「卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている」及び 8「卒業生の活動状況の分析結果を教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している」の 2 つの評点が 2.5 と昨年度よりマイナス 0.5 である。コロナ禍以降実習病院や就職先に卒業生の状況調査は行っていない。令和 6 年度卒業生が新カリキュラムの初めての卒業生であったが、カリキュラム評価を実施できていない。令和 8 年度は計画的に実施する予定である。</p> <p>卒業時に教育目標に沿ったアンケートを行い概ね到達目標は達成されている。卒業時の就職状況調査で就職、進学について把握しており、次年度の就職指導に役立てている。</p> <p>令和 7 年度卒業生 (67 名) の就職先は、兵庫県内へ 56 名、西宮市内 29 名(再掲)であった。また国家試験合格率は 95.5%で全国平均は上回っているが、100%合格を目指し、学習支援を継続する。</p>
<p>VI 社会貢献・ 地域貢献</p>	<p>カテゴリー評点 2.60 点 (昨年度比 0.7 減)</p> <p>評価内容 3「養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている」、評価点が 2.0 で昨年度よりマイナス 0.5 である。学校祭やボランティア活動等地域の人々に関わる機会があるが、本校の教育活動に関して地域社会のニーズを把握する手段を確立できておらず課題である。</p> <p>地域で必要とされる看護師養成所となるためにも、地域貢献できる活動を増やしていきたい。</p>

令和7年度 自己評価結果

